

静岡文化芸術大(浜松市中区)のボランティア団体HANDs(ハンズ)の代表だった2月下旬、フィリピン・ダバオ市を訪問。浜松市民から集め、きれいに磨いた鍵盤ハーモニカ約100台を寄贈した。同大文化政策学部3年生。20歳。

— 寄贈のきっかけは。

「フィリピンの学校は音楽の授業も楽器も十分整っていない。『音楽の街・浜松』の学生として演奏の楽しさを伝えようと、2017年度から活動を始めた。新聞社の告知記事や会員制交流サイト(SNS)を通じて、中古鍵盤ハーモニカ

に学校のフィリピンに  
学生団体の元代表  
なつめ まみさん (北区三ヶ日町)  
夏目 茉実さん

## この人



提供を呼び掛けている」

— どのように磨くのか。

「黄ばみや名前の書き込みなどがあるので、アルコール消毒液とスポンジで磨く。吹き口が付いたホースも汚れているので漂白剤に漬ける。十数人のメンバーが1人10台ほど分担するが、冬は水が冷たくて大変」

— 子どもたちの反応は。

「小学3、4年生ぐらいの70人以上に鍵盤ハーモニカの吹き方を教えた。『音を出したい』と夢中で、にぎやかな雰囲気楽しんでくれた。私たちが帰国する前、賛美歌を練習して披露してくれてうれしかった」

— 後輩に何を伝えるか。

「異文化に触れることができた貴重な経験だった。子どもたちに『音楽は楽しい』と感じてもらえるよう工夫して活動してほしい」

◇

旅行業の仕事と資格取得に興味を抱いている。  
(浜松総局・瀬島義孝)